

NPO法人 町田ハンディキャブ友の会

〒194-0013 東京都町田市原町田4-24-6

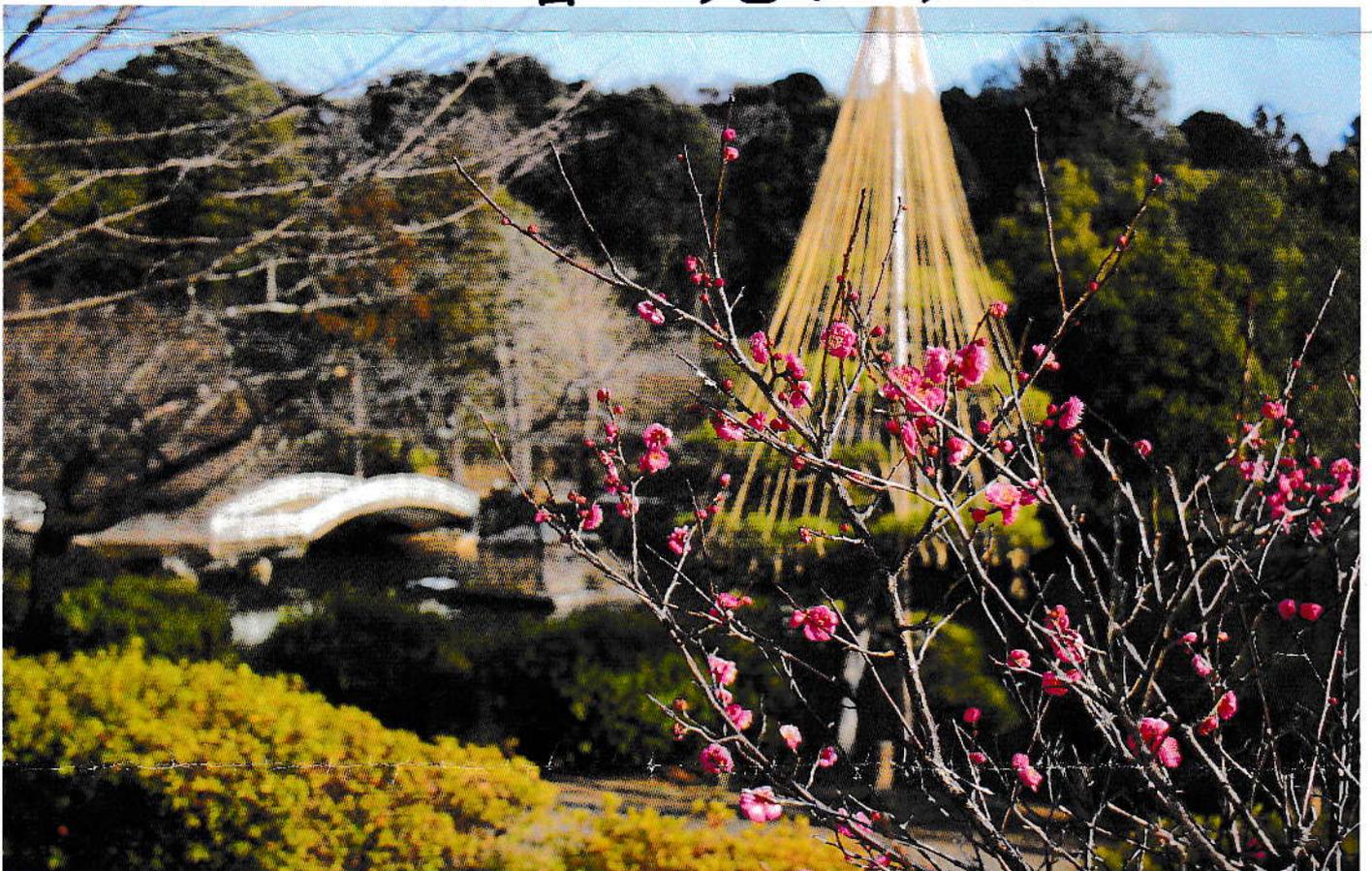
Tel : 042-721-5721 Fax : 042-721-6605

mail : mcdhcb@yahoo.co.jp

第73号 発行責任者 石井 章夫

発行日 2026年2月15日

春に先がけて ～紅梅～



撮影地：薬師池公園

新たな年を迎えて

理事長 石井 章夫

昨年は皆さまの協力を得て、滞りなく移送サービス事業を行うことができました。今年も引き続き「安全で安心して利用できる移送サービス」を目指してまいります。

現在、わが国ではあちこちで地震が起こっています。私たちの活動においては、いつ地震に直面するかわかりません。会では、地震等の災害に備えるため防災マニュアル（災害と移動困難者について）を定めています。

「大地震発生時、私たちはどのような活動をすればよいか」、また「運転中に大地震が起こったらどう対応すればよいか」等、今年には会として改めて考える必要があると思っています。

これからも町田ハンディキャブ友の会は活動を行いながら、「福祉のまちづくりの推進」を図ってまいりますので、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

活動報告

◎まちカフェ

11月29日(土)、第19回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」が町田市役所で開催されました。140を超える団体が参加する、町田最大規模のイベントです。

町田ハンディキャブ友の会も車いす対応のリフトカーの展示および体験を行いました。併せて、当会の活動の紹介、運転手の募集案内を行いました。



車いすリフト体験

会場では多くの方に車いすに乗った状態で、リフトの昇降を体験して頂きました。また、競技用車いすの試乗体験も行いました。競技用車いすは操作性が高く、子どもたちに大人気で順番待ちが出るほどでした。ゼルビーくんやまちだガールズクワニアのメンバーの方たちも試乗して楽しんでいました。

◎車いすで冒険!

原町田七福神めぐり

12月6日(土)、小学生の親子を対象とした「車いすで冒険! 原町田七福神めぐり」を町田ハンディキャブ友の会主催、町田市役所福祉総務課協力の下、行ないました。また、この事業は「まちカフェ」および「まちだ地域まるごとキャンパス事業」の一環となっており、町田市地域活動サポートオフィスの方や事業に参加している大学生の方など、多くのボランティアの方にも参加して頂きました。

参加した6組18名の参加者はまず、せりがや会館でオリエンテーションおよび車いすの操作講習を行いました。初めて車いすの操作をする方も多く、注意点やコツなどを熱心に聞いていました。



車いす操作講習

せりがや会館での講習を終えた後は、グループに分かれ、実際に車いすに乗ったまま街なかに出て、「原町田七福神めぐり」を行ないました。それぞれ自由なルートで七福神が祀られている寺社を巡りながら、課題(飲食店で食事をするなど)にも挑戦していただきました。



車いすの乗って出発!

七福神めぐりを終えた参加者は、制限時間内にせりがや会館へ戻り、ひと息ついた後、福祉総務課の職員から、「心のバリアフリー」について学びました。実際に車いすを体験した後に学んだことで、よりいっそう「心のバリアフリー」への理解が深まったように思います。

最後にまとめを行ない、各グループからそれぞれ気づいたことなどを発表していただきました。「道がでこぼこで走りづらかった」「少しでも気を抜くと

車いすがななめになってしまった」「飲食店に入るのは大変だった」「目線が変わり、落ちているゴミが気になった」など、普段の生活では気づかなかったことが多くありました。



多くの気づきがありました

また、参加者には参加賞として、参加者の顔写真入り「特製八福神缶バッジ」と粗品が渡されました。参加者のみならず、会としても充実した一日となりました。



特製「八福神」缶バッジ

岩城ミヤ子
松下 幸子

近野 幸子

浩一
市郎
(敬称略)

鈴木賀寿彦



年会費のお振込み
ありがとうございました

ドライバーのつれづれ日記



森 誠

2024年5月に初めて利用者さんを送迎し始めた当初、緊張のため、運転中に利用者さんに話しかけていただいても、まともに受け答えできなかったことを思い出します。

あれから、2025年12月末で1年8ヶ月が経ち、その間に利用者さんを合計578回送迎させていただき、今では、本当にリラックスして運転できるようになりました。

今は、話しかけてくださる利用者さんとの会話がとても楽しいひとときになりました。利用者さんと付き添いの方の思わずほほえんでしまうような会話が耳に入ってくると、私も心温まる気持ちになります。また、利用者さんからねぎらいやお礼の言葉をいただいたときは、当初から変わらず、本当にうれしく思います。

現在、利用者さんの送迎はすっかり私の生活の一部になっています。今後も安全・快適にお送りすることを第一に考え、運転ができる限り続けていきたいと思っています。

シリーズ・ことば

遺しておくべきもの

Nabe.

はじめてその書物に触れ、はじめてその文字の連なりを目で追った時に受けた稲妻のような衝撃が、半世紀の歳月を経た今でも尚、色あせずに鮮やかに残っている。先人には無断の拝借になるが、どうしてもその一節をこの稿に残しておきたい。

人生には匂いがあり、味もある。その時々によって、うっとりするようないい香りであったり、湿気を含んだカビのような匂いであったりする。そして甘い味がしたり苦い味がしたりする。その時に気が付かなければならない。人生がどういものであるかを考える場合の方法や順序が全く狂っていたことに先ず気が付かなければならない。

新しい手帖を上着の隠しに入れておくと、その最初の夏に、それまでの自分が書けなかったことを書こうとして眼が鋭くなり、耳もさまざまな音を聴くようになる。そしてその音と視界が結びついてくると更に面白くなる。普段よりも激しく意識が集中していると、感覚は物をそのまま素直に感じてはいけなくなるような気分になる。たった一冊の新しい手帳を持っているために。

枯れてもなおそのままの姿で立っている草の屍は頼れる機会を遂に失って、過ぎて行った年の矜持をみせ続けている。

早くたおれて、それから死を待てばよかったという後悔もない。

「不器用な愛——串田孫一」

事務局の方より

◎運転協力員募集
ドライバールの減少に伴い、運転協力員を募集しています。講習を受ければ、普通免許で運転できますので、お知り合いの方へもお知らせください。

◎降雪時の対応について
降雪時は、運行の安全を確保するため、運行の休止をする場合がございます。その際は、電話等で連絡いたしますので、ご承知おきください。

◎会費納入のお願い
町田ハンディキャブ友の会は、皆様の会費で運営されています。今年度の会費未納の方は、お振込み願います。

運転協力員募集

特定非営利活動法人

町田ハンディキャブ友の会



第一種普通免許
または第二種普通免許
をお持ちの方で、
73歳位までの方
(75歳定年)

- ・普通免許でも講習を受ければ運転が可能です。
- ・シフト制なので、空いてる時間に活動できます。
- ・若干の謝礼があります。

町田ハンディキャブ友の会は、1982年に、身体に障害のある方や、高齢で外出が困難な方たちの外出を支援し、自立促進と行動範囲の拡大を目的として設立された会員制のNPOボランティア団体です。

通院・リハビリはもとより、お買い物・お食事・娯楽・文化活動等々の多岐にわたり外出支援をしています。

私たちと一緒に外出のお手伝いをしてみませんか？

【問合せ】町田ハンディキャブ友の会

町田市原町田 4-24-6 せりがや会館内

Tel 042-721-5721 Mail : mcdhcb@yahoo.co.jp

《編集後記》

光陰矢の如し

2026年。
あつという間の年明けである。
過ぎてしまったつい昨日を振りかえってみると、その生涯の生きざまと共に、心のまんなかに刻み残しておきたい幾つもの尊いのちの灯が消えていった。とりわけ先のおろかな戦争と、その戦争ゆえにもたらされた内外すべての犠牲者に、痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明（1995年8月15日「村山談話」した、時の首相、村山富市さんの旅立ち（2025年10月17日〜101歳）は、民主主義が確かな生命として息づいていたひとつの時代の終焉を告げられたようである。言葉なく辛く悲しい。

2022年にささやかな記念行事のなかで40周年の歩みを振りかえった「ハンディキャブ」も、はや44年目の歩みにはいった。まさに「光陰矢の如し」である。

(2026.2月.広報子一同)